2016.9.19

ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神代論

妖怪 vs 神獣

動物精神と古き神々

天海 ヒロ

animandal.com

ANIMANDALA

生命進化に見る心のカタチ

天海ヒロ(福田 博行)

ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・アニマンダラ

ANIMAL + MANDALA

動物マンダラ

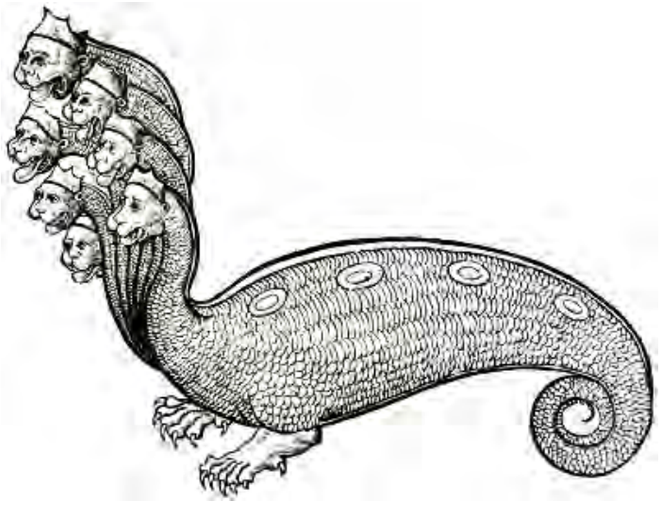
ANIMA + MANDALA

魂マンダラ

ANIMANDALAとは

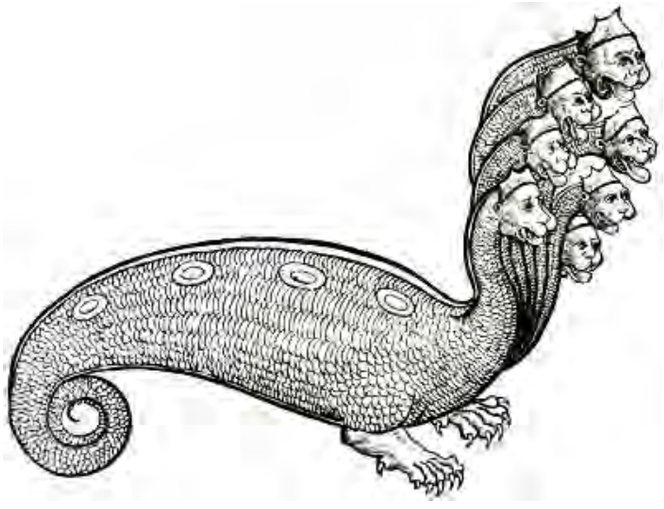
◎生物学とトーテミズム・アニミズムの融合。
◎人生と進化を同一視し、かつてネイティブアメリカンが生きていく智慧を、動物や自然から学んだように、生命の智慧から気づきを探るメソッド。
◎意識進化と生物進化の対応を描き、生物進化を意識進化の道しるべとします。
◎動物の種を自我パターンを反映したアニマルキャラクターとみなし、無意識や自我に身体性を与え、潜在化されていた人間性を明らかにします。

動物-妖怪-精霊-神々



その境界を考え

神々にいたる道を辿る



動物≠妖怪

動物は妖怪では無い

動物≠神

動物は神では無い

動物≠人

動物は人では無い

ルネサンスと宗教改革の
16世紀ごろまで
精霊や魔物と動物の明確な
境界線は曖昧だった

妖怪や精霊と動物がハッキリと分けられたのは
西洋から発信された合理と科学の考え方が
地球規模で広がった、近代のこと

動物を人のような存在であると促えたり、あるいは
動物に未知の超越的な力見出して
動物を妖怪や精霊、神そのものとして捉えることが
当時は当たり前だったのです。

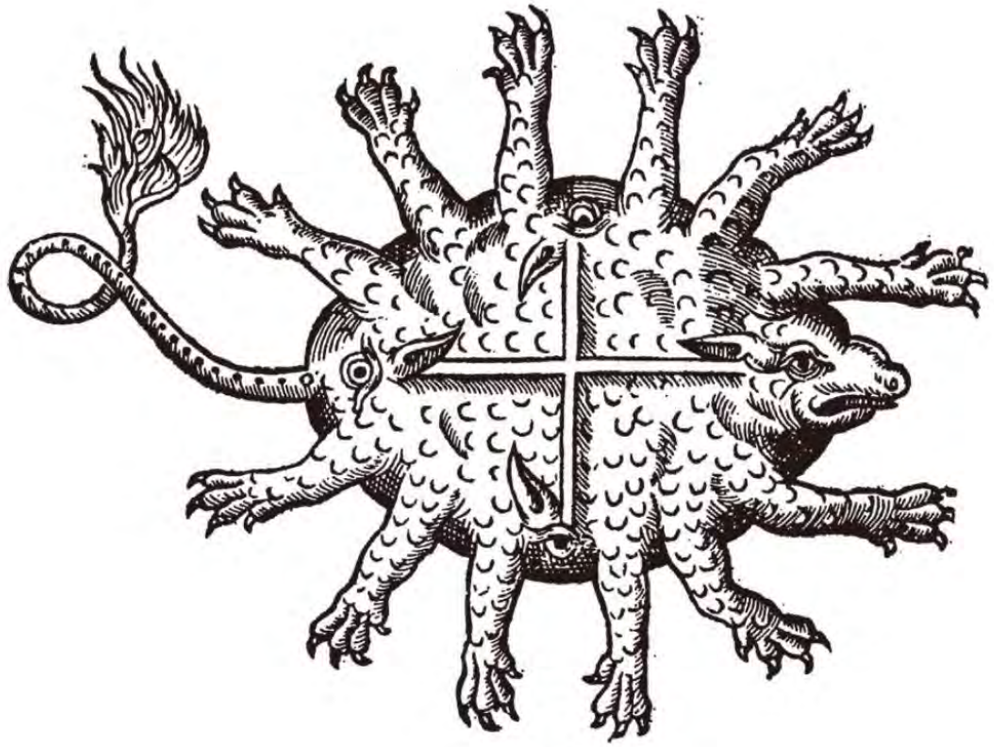
16世紀とは

1501年～1600年　ルネサンスと宗教改革 近代の芽生え

◉天動説
◉ユリウス暦からグレゴリウス暦へ
◉大航海時代
◉イエズス会の躍進
◉マヤ、アステカとの接触と衰退
◉日本は室町から安土桃山時代

一角獣の実在が疑われ出したのは 、十六世紀後半ごろ。一角獣に関するすべての奇事異聞を、一つ一つ冷静に検討しながら、それらが根拠のない風聞にすぎないことを証明したのは 、フランス王家お抱えの外科医だったアンブロワズ ・パレでした。しかし・・・

海の蝸牛



円形の怪物

しかし、そのパレ自身がこんな怪物達を自分の著者で取り上げている

コンラッド・ゲスナー
Conrad Gesner（1516〜1565）
スイスの博物学者。
『書誌学』『植物学』の父と言われる。

『動物誌』1551-1587
古今に知られた動物を現実に限りなく近いとした図版と共に論じた動物学書。 図版や資料などは当代を代表する学者達からも協力をもらった。
アリストテレスに頼っていたり、実観察ではなく先人の著書をまとめ内容とも言われるが、最初期の体系的にまとめた大動物書。多くの動物学名がゲスナーによってラテン語学名が命名され、 リンネへ引継ぎ採用されたという。

ジェニー・ハニヴァー

最も早い出典は、スイスの博物学者コンラート・ゲスナーの『動物誌』第4巻（1558年）に遡る。

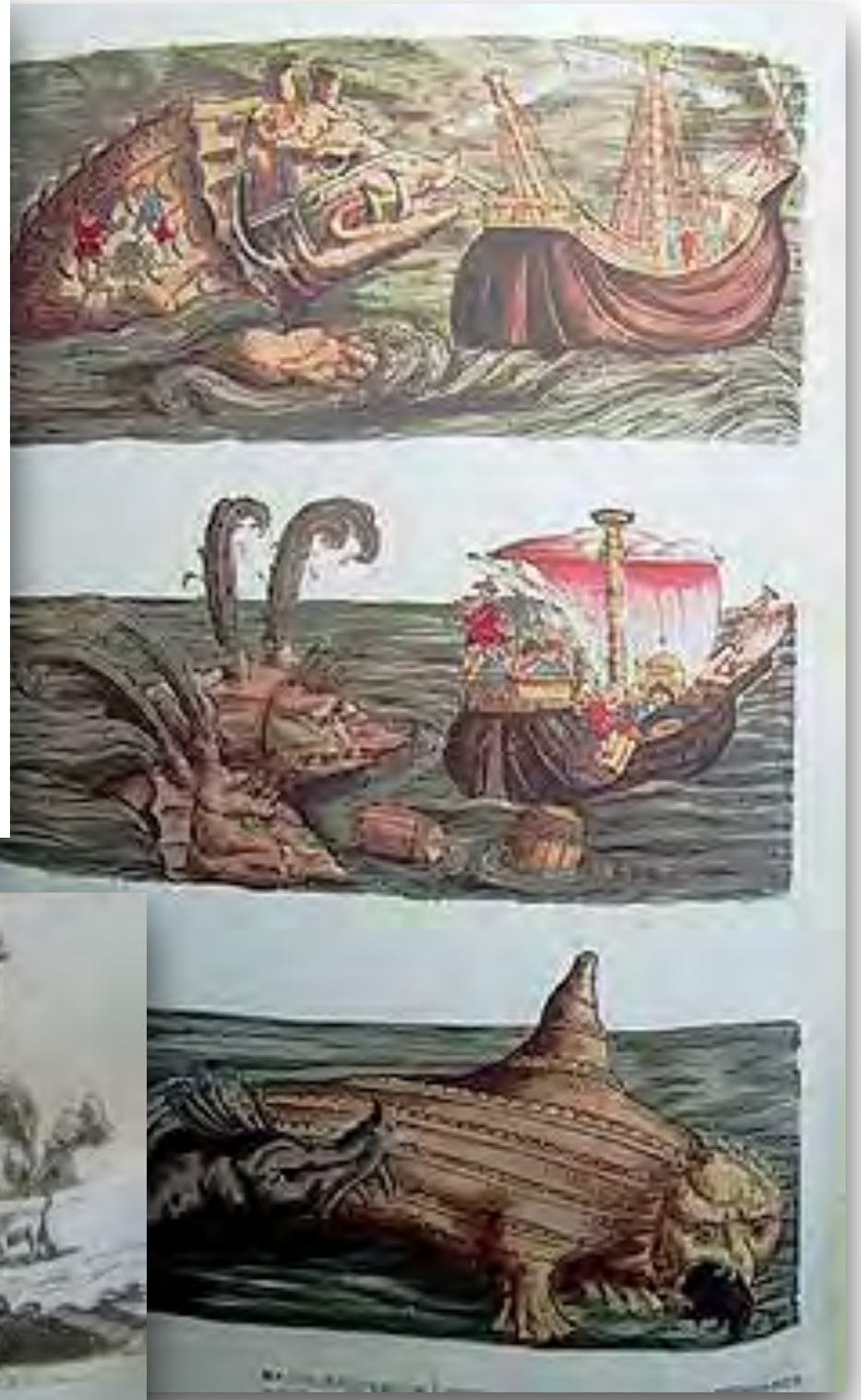
ゲスナーはその中で、「これらは単にエイを偽装したものに過ぎず、誤解されているような竜や怪物のミニチュアではない」と指摘している

コンラット・ゲスナーの『動物誌』
博物学の世界観

直接調べられるものは可能な限り自分の目で調べ、直接調べるのが不可能なものは、偽りと知りつつも恣意性を避けて、入手可能な資料を忠実に模写した。

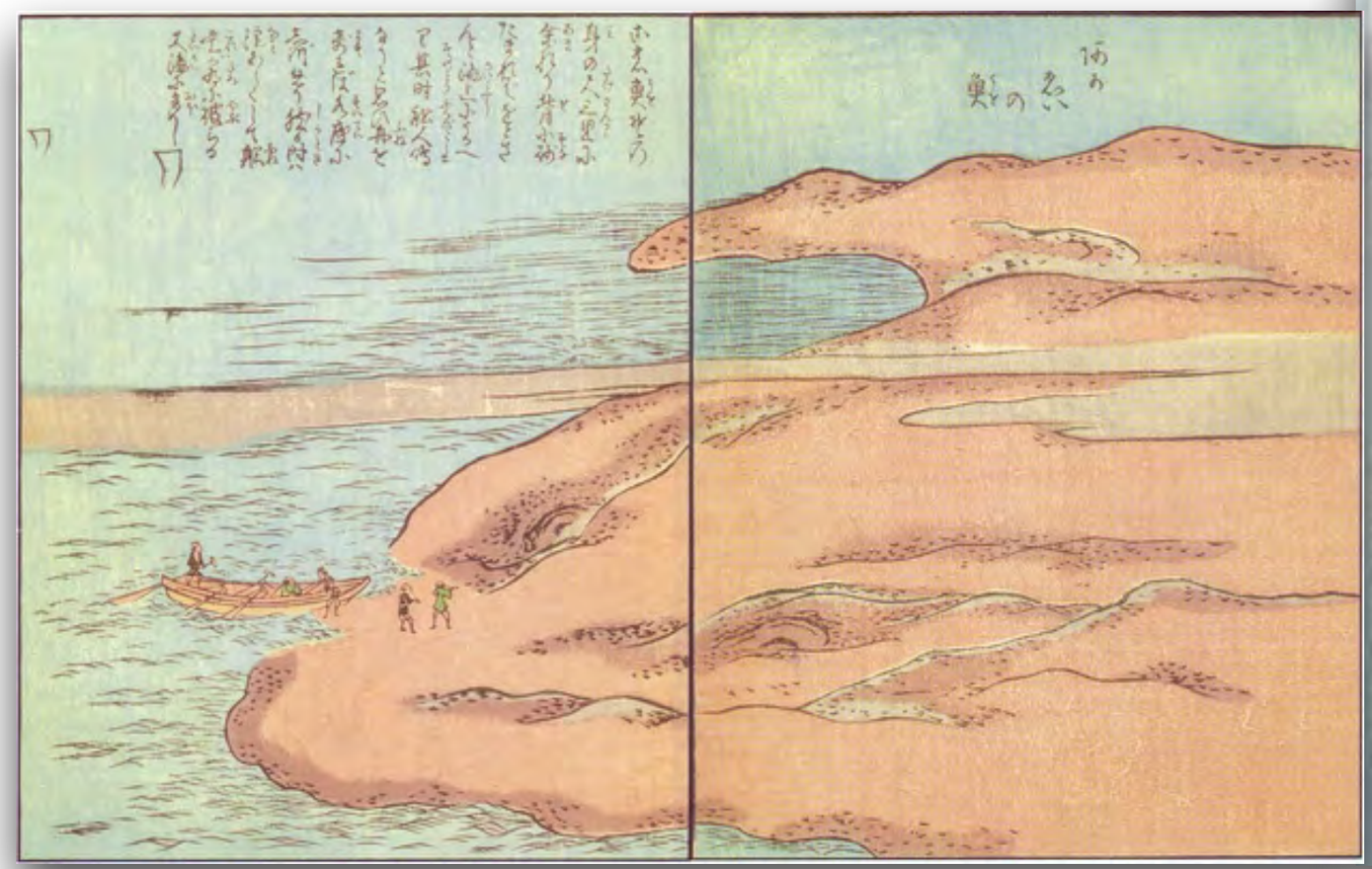
コンラット・ゲスナーの『動物誌』
博物学の世界観

コンラッド・ゲスナーの怪物
「イクティオケンタウルス」（上）と「モンストルム・サテュリクム」（下）



コンラット・ゲスナーの『動物誌』
博物学の世界観

絵本百物語 1841年　赤エイ
江戸時代に流行した百物語怪談の一つ



ガイウス・プリニウス・セクンドゥス（Gaius Plinius Secundus、22 / 23年 – 79年）

古代ローマの博物学者、政治家、軍人。ローマ帝国の海外領土総督。自然界を網羅する百科全書『博物誌』を書き上げる

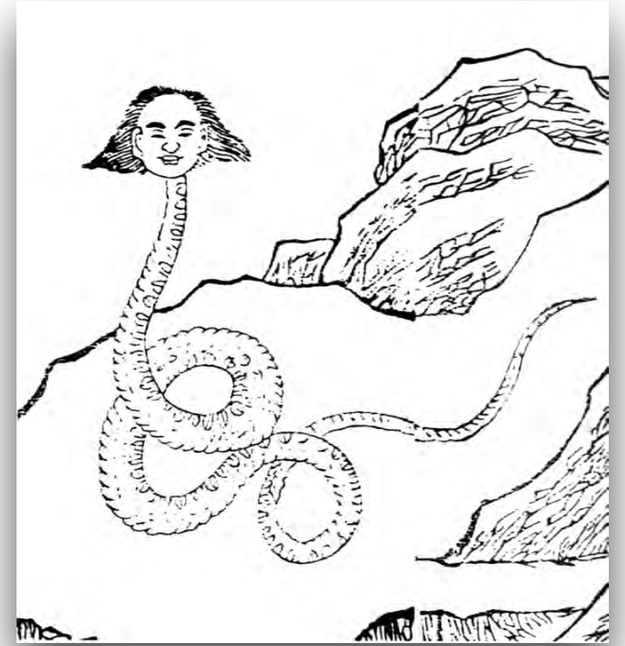
『博物誌』（Naturalis Historia）77年

ローマの大プリニウスが著した書。全37巻。地理学、天文学、動植物や鉱物などあらゆる知識に関して記述。数多くの先行書を参照しており、本人が見聞、検証した事柄だけではない。怪獣、巨人、狼人間などの非科学的な内容も多く含まれるが、科学史、技術史、古代ローマの芸術ににまつわる重要な記述を含み珍重される。

大プリニウスの『博物誌』
博物学の世界観

山海経
せんがいきょう

中国の地理書。中国古代の戦国時代から秦朝・漢代（前4世紀 - 3世紀頃）にかけて付加執筆されて成立したものとされる、最古の地理書。
古代中国人の伝説的地理認識を示す「奇書」とされる。
編者は禹と伯益であるとされるが、実際は多数の著者の手によるものと考えられる。



女媧

(人類創造の女神)

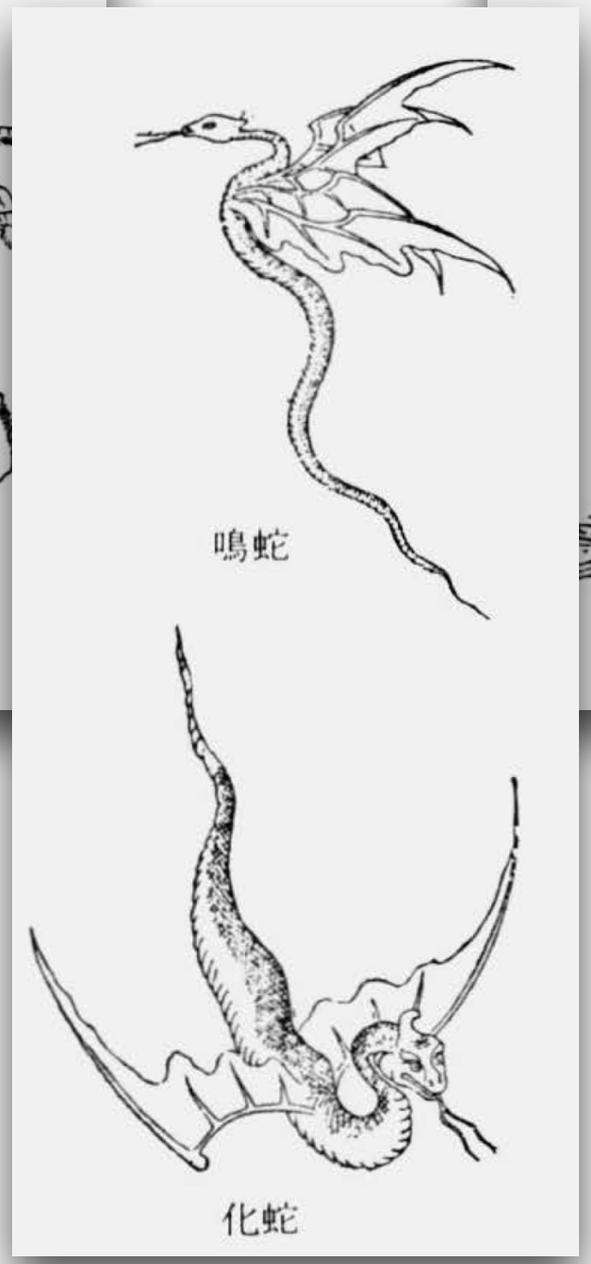
内容のほとんどは各地の動植物、鉱物などの産物を記すが、空想的なものや妖怪、神々の記述も多く含まれ、そこに古い時代の中国各地の神話が伝えられていると考えられている。そのため、後世失われたものの多い中国神話の重要な基礎資料となっている。
1607年の中国の百科事典の三才図会(江戸の和漢三才図の原書)でも多く引用されている。

山海経
せんがいきょう

三足亀

帝江(ていこう)

謹(かん)


鳴蛇

化蛇

珠蟞(しゅべつ)魚

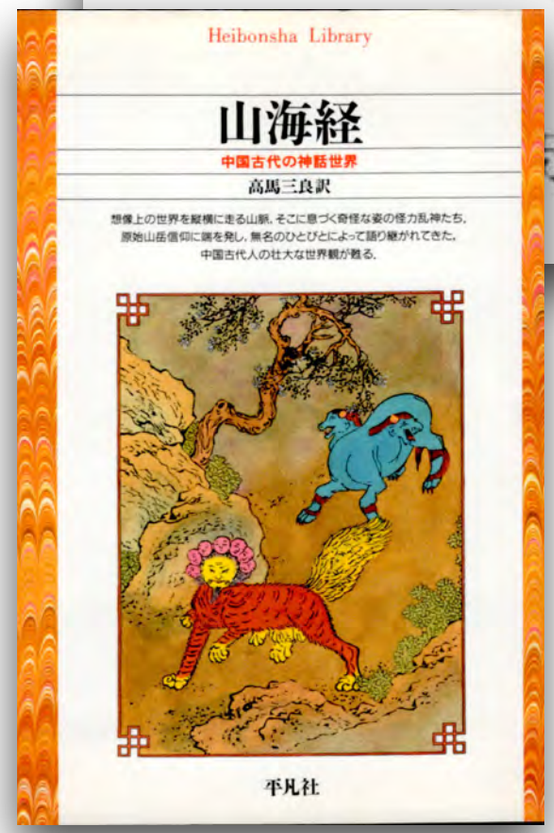
朱獳(しゅじゅ)

臧羊(しんよう)

山海経
せんがいきょう

蜃のように生物学ではオオハマグリであるが、「東山経」や「海内北経」にあるごとく、掻気楼をおこす化物のようにも考えられていたものもある。ダは揚子江鰐のことだが、近代まで竜の一種と考えられていた

おおよそ全体の四分の一にあたる百種類ほどが実在する生物であるようだ。



鳥山石燕先生は、この『山海経』の異様さが眼が踊るほど気にいったようで、自分の妖怪阿仰木である『画凶百鬼夜行』に参考にされたばかりか、『山海経』出身の方々を数名(？)お招きして、描いているほどである。

『山海経』はいわば大先達になるわけだ。
(水木しげる 解説 日本に渡った精霊たち)

◁山海経　形天 紀元前4世紀

中原から遠く離れた西南方に位置する常羊（じょうよう）の山近くで神の座を掛けて争い、敗れて首級を常羊山に埋められるが、なおも両乳を目に臍を口に変え、干（かん。盾）と戚（せき。斧）とを手にして闘志剥き出しの舞を舞い続けたという、英雄

▽セバスティアン ミュンスターの年代記(15世紀)

大プリニウス『博物誌』では
頭部がなく、口や目が胸にあるという
北アフリカの部族だとしている。

頭部のないブレムミュアエ

『ニュルンベルグ年代記』
(15世紀)

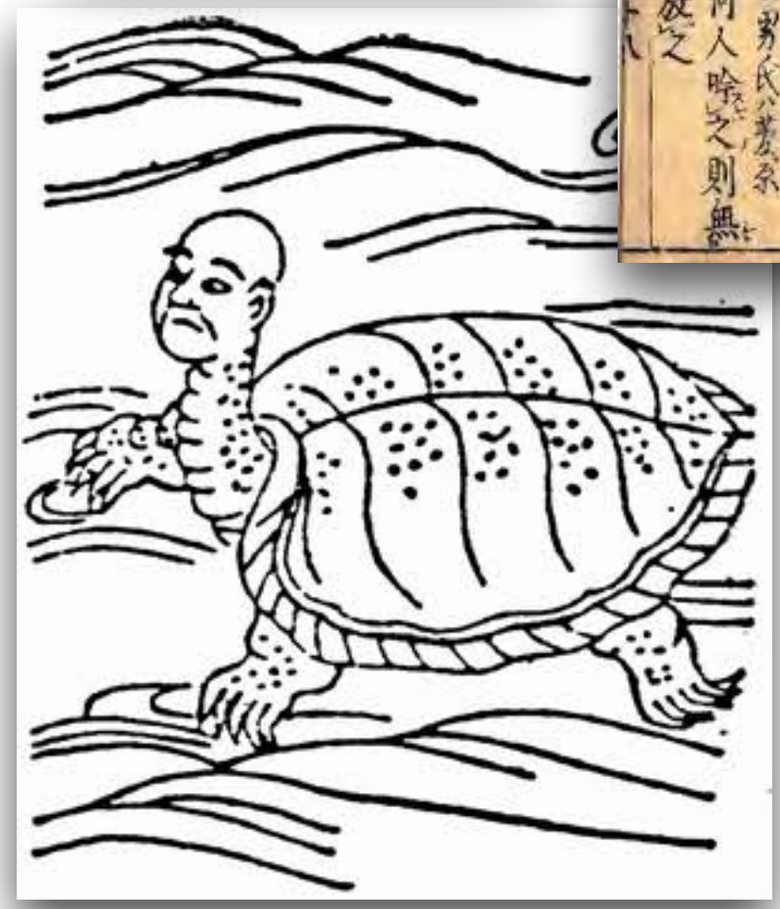
◁山海経　応龍 紀元前4世紀

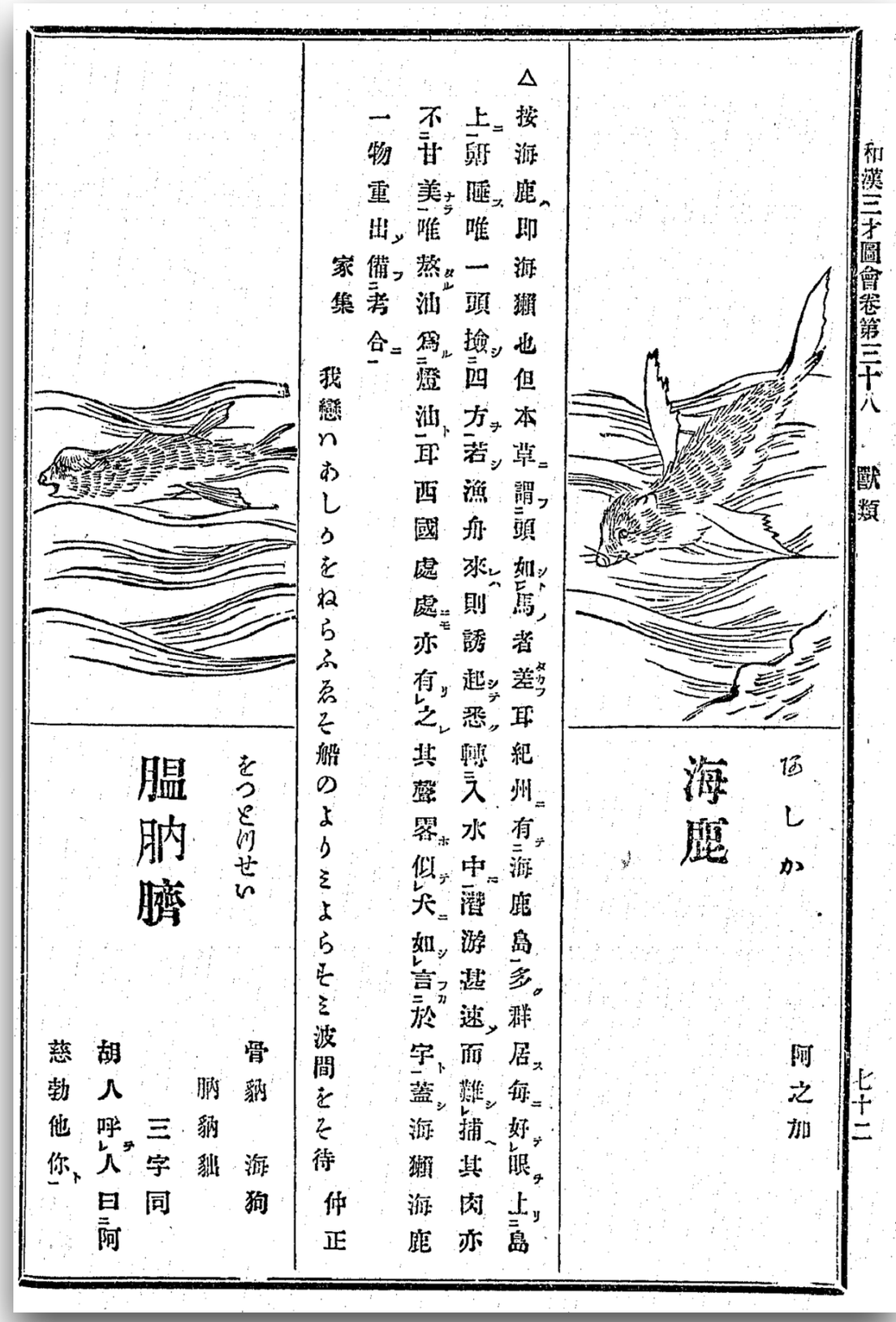
黄帝に支えていた龍。
コウモリないしタカの羽があるとされる。
『述異記』には、「泥水で育った蝮（まむし）は五百年にして蛟（雨竜）となり、蛟は千年にして竜（成竜）となり、竜は五百年にして角竜（かくりゅう）となり、角竜は千年にして応竜になり、年老いた応竜は黄竜と呼ばれる」とある。

▽和漢三才図会　應龍 1712年 江戸時代

和漢三才図会

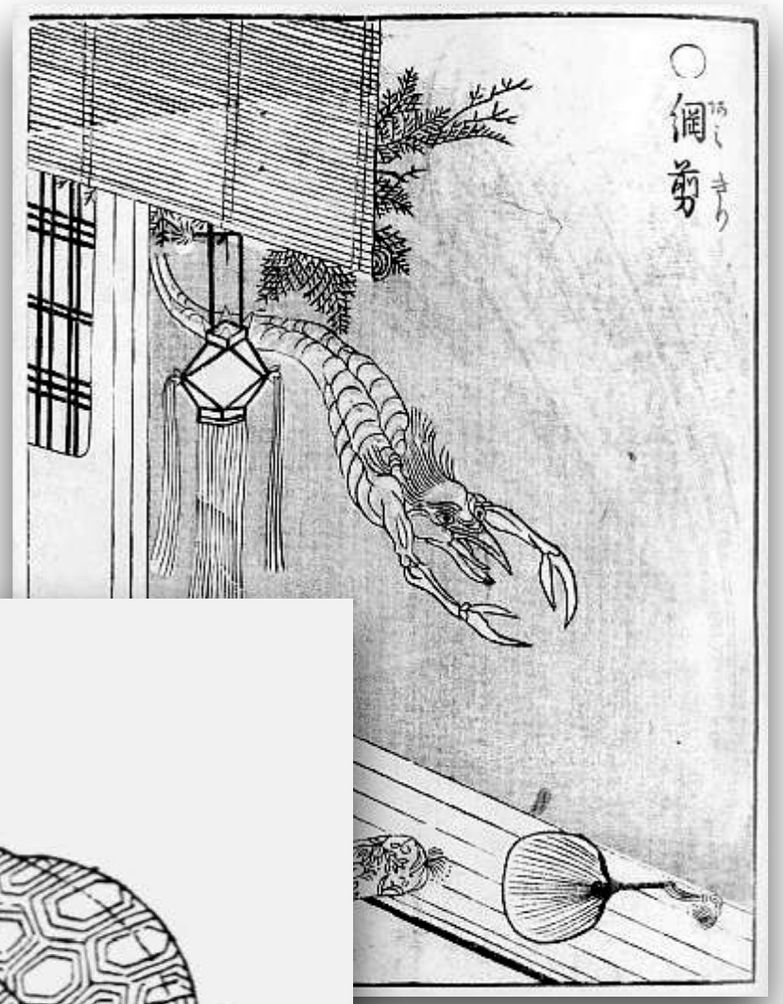
江戸の百科事典



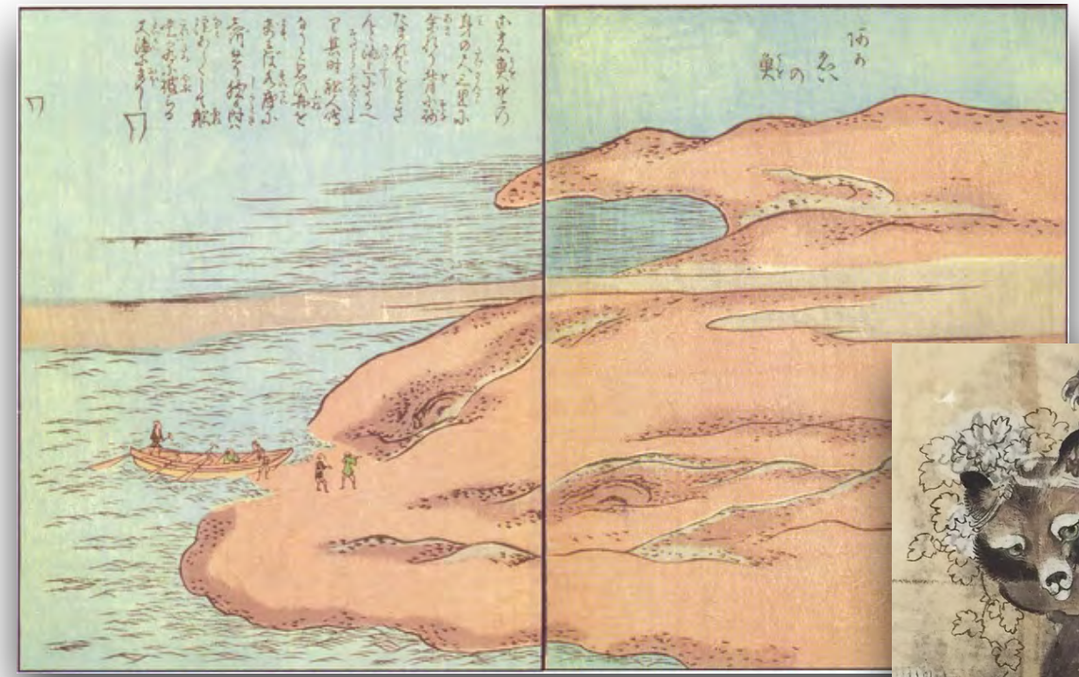


動物=妖怪

未知の動物➡そもそも動物自体が未知だった

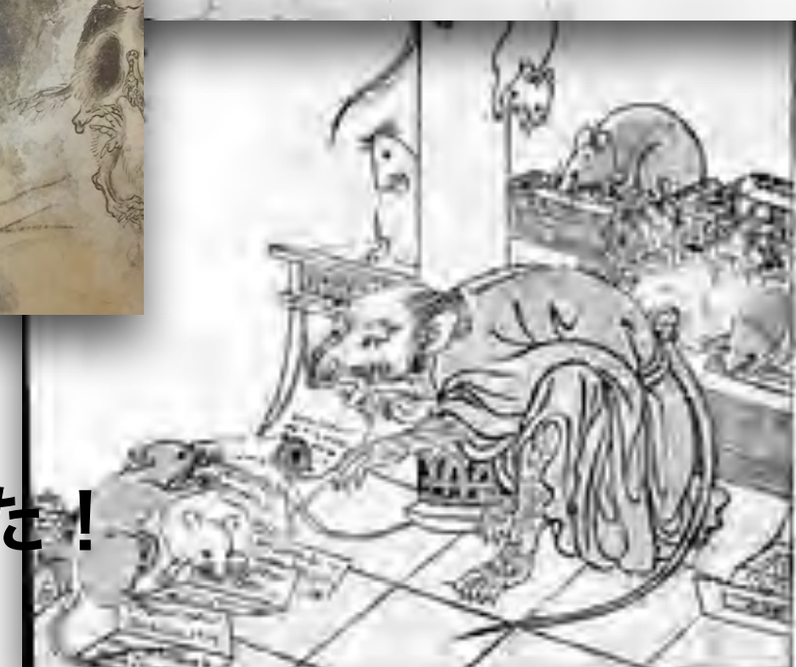


動物=妖怪

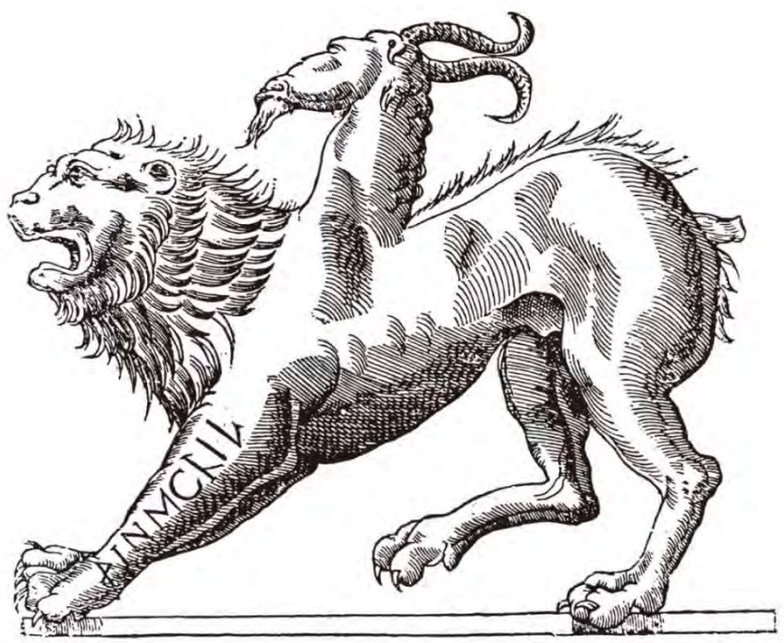


圧倒的動物
化かす動物

それは妖怪に
ほかならなかった！

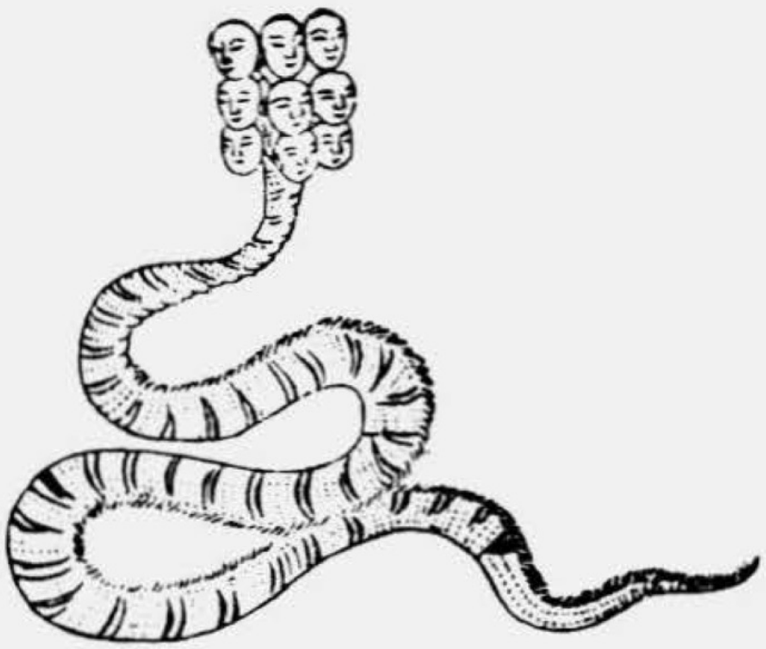


合成動物=妖怪



キマイラ

動物人間=妖怪



相柳

コンラッド・ゲスナーの「海坊主」の図『イコーネス・アニマリウム』（チューリッヒ　1560年）より

動物人間=妖怪

スフィンクスとオイディプース　ギリシアの壺絵

動物=妖怪

◉未知なる動物、圧倒的動物
◉合成動物(キメラ)
◉化かす動物
◉獣人

UMAと妖怪

ネッシーやツチノコ、イエティーなど、
未確認動物のことをUMAと言います。

プリニウスの書や山海経の奇妙な動物たちは、
妖怪ともUMAとも見ることができるでしょう。

かつての人間は動物も、霊的な存在と見ていました。あらゆる動物も存在も八百万の神の如く未知なる者でした。
実在するか否かよりも、存在に神秘を見出していましたのです。
しかし、近代思想は神秘を見失い、存在するか否か、明らかにすることだけに注力します。

その結果、妖怪や精霊はUMAとして、実在だけを問題視されるようになります。

今だってよくわからない動物達
ホホジロザメが子宮で「授乳」、サメでは初の発見
「頭の整理がつかないくらい驚きました」と研究者

ホオジロザメは
知名度の反面、研究報告は少ない。メスには子宮があり、体長1.3〜1.5メートルの子どもを産むことはわかっているものの、特に妊娠したメスを調査した報告は出産直前の数例しかなかった。

妊娠初期のホホジロザメの胎仔。体長55センチ。胎仔のこの形態も初めて確認された。（写真：沖縄美ら島財団）

今だってよくわからない動物達

動物≠神

動物は神では無い

世界の古代動物神とトーテム信仰

Ancient animal god and Totem faith of the world

ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカダチ・シャエイ曼荼羅

動物=神

古代エジプトの動物神

Animal gods of ancient Egypt

Ra

Thoth

Taweret

Serket

Khepri

Sobek

Anubis

Meretseger

Bastet

Chnum

Sekhmet

エジプトの神々の多くは
獣面・多神教の神々

被り物のようにも見えるが、
オシリスやイシスのように人間タイプ
アメンやラーのように、人間としても描かれる神々がいる
一方で、トト、アヌビス、セトなどなど、
少なくともエジプト史上人間として描かれたことが確認されない神々が少なくない。
逆に獣そのものとしては表させることは多い。

ギリシャ人などのヨーロッパ人は、アヌビスなど獣面の神々を非常に奇妙に思い、しばしば悪神として解釈した。また、キリスト教によって、悪魔へと解釈された神々もいます。

◀マヘス

オスライオンの神。嵐と風の主人
王の守護者にして戦友
隠されたライオンシャーマニズム
のシンボル

▼タウレト

カバの女神偉大なるもの。神々の母
原初の水の中にいるもの。
妊婦の守護者

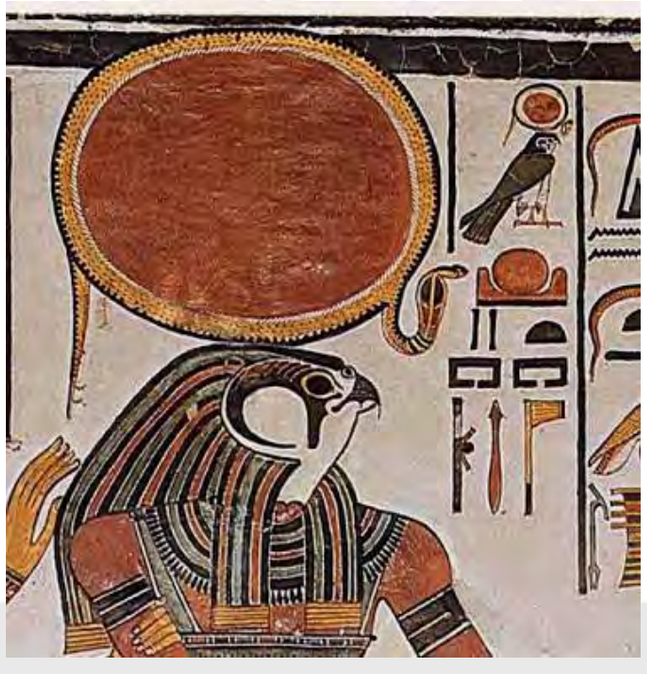
セベク▶

ワニの神
集めるもの。
種子の主人、
豊穣の神

アモン神から、大悪魔アモンへ

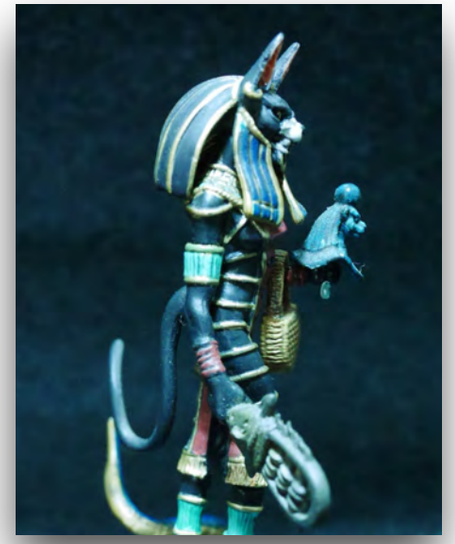
アンモナイトを
加工した聖蛇石

ラーと並ぶ太陽神アメン
『隠された者』
『神秘なる者』
もともとは地方神だったが、国の首都がテベーへと移動したことで、ラーに代わった。後にラーが復権した時、アメン・ラーとして同一視された



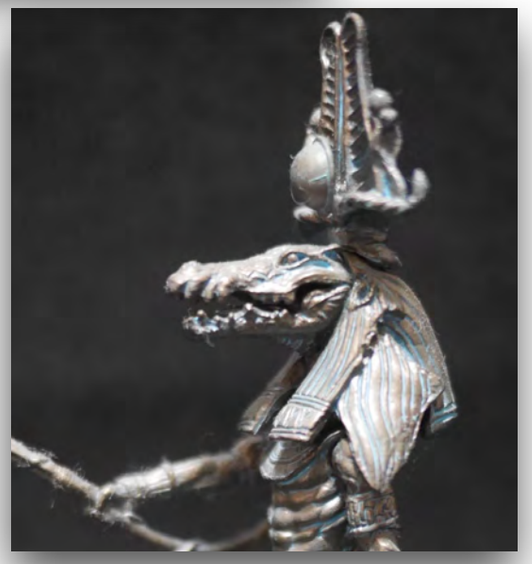
地獄の階位７位
最強の悪魔侯爵アモンは
中世ヨロッパの魔術書グリモワールに頻出。
『悪魔の辞典』などに、
その由来はアモン神と推論されている

動物神(特に捕食者)は、恐れと畏敬の念、恐怖とどのように向き合うかの文化的姿勢によって、二面性を見せます。それにより、神⇆悪神の転換が起きます。



ネコの神バステトと雌ライオンの神セクメト

セクメトは、エジプト最強の破壊神、戦いの女神。人間を滅ぼそうとしたこともある。
バステトは歴史の初期では、獰猛な恐ろしい神の一面を見せるが王の乳母とされる女神。後にその獰猛性は弱まり、可愛猫として表現される善神に。



ワニの神セベク

穀倉地帯のファィユームでは、
農耕の守護者。力の象徴。
セトによりバラバラにされた身体を
かき集め、水中戦でともに戦う善神。
しかし、ワニを恐れるファィユーム地方意外ではセト陣営の悪心とされることも。

動物神(特に捕食者)は、自然への畏敬の念と感謝、
守護者であると同時に、
それを忘れた時の荒らぶる存在でもありました。
また、理性ではコントロールしきれない、激しい人間の情動のポジティブな面とネガティブな面を表しています。
受容し子を守るような愛情や、新たなものを生み出す創造性、チャレンジ精神もあれば、恐れからくる怒りや、嘆きもあります。
恐れを克服し、世界を受容し、自然と共に創造的に生きる英知のシンボルと言えるでしょう。

嵐と暴風の神セト
王位の簒奪者としての面もあるが、太陽が乗る船の守護でもあり、闇の蛇アポピスの天敵でもあった。
エジプトのゴジラ的存在

大口真神

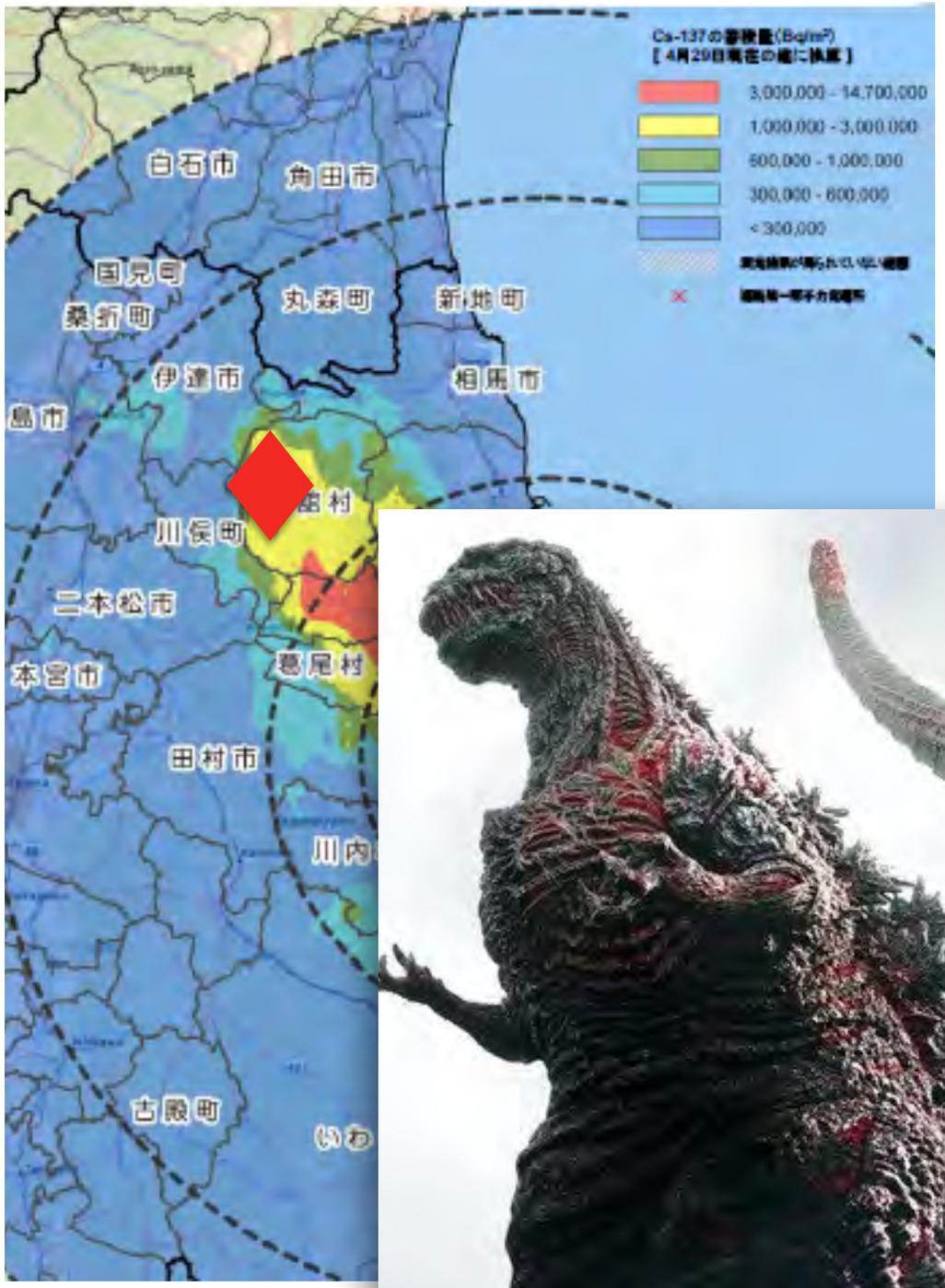
御神犬、眞神とも。ニホン狼が神格化したもの。
飛鳥の真神原の老狼は、大勢の人間をら食べてきたため、その獰猛さから神化され、猪や鹿から作物を守護するものとされた。
森の守護者であり、人間と自然の調和をバランスする神。

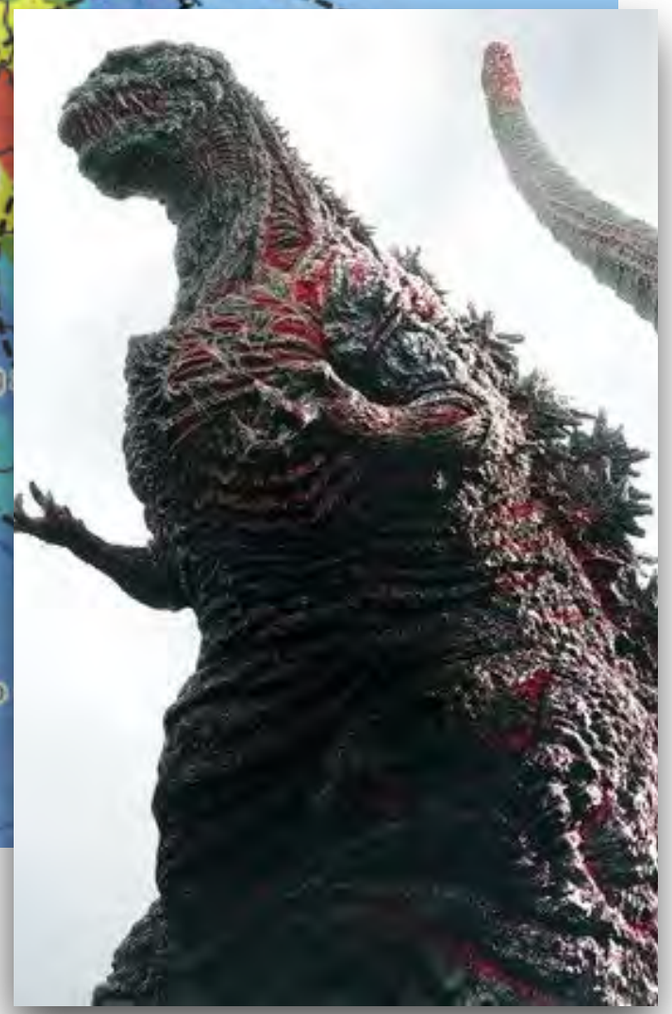
今日では埼玉県秩父地方の三峯神社を中心に手厚い信仰がある。ニホンオオカミの聖地。彼らを追いかける男達にはニホンオオカミ、UMAであり、神でもあります。

飯舘村山津見神社

狼を眷属とする神社

山神の眷属とされる狼や白狼の信仰が厚い神社。火難盗難避けのご利益がある札が配られる。
311原発事故の時、放射能被害がこの神社で止まった。





その他 日本の動物神

◉お稲荷さん キツネ
◉蛇神信仰とミシャクジ　東日本に広がる先住民信仰ともされる。石、木々が信仰されたが、諏訪地方などでは、蛇神信仰と縮合され、ヘビの姿を持つともされる。
◉アイヌのカムイ達。

古代の神々

根元神(非存在) ワカンタンカ、天之御中主、本来のアメン？

▽

岩、樹木の自然神、(存在神) ➡蛇神(ミシャクジなど)

▽

動物神(多様性の神)、星信仰

▽

太陽信仰

▲アニミズム、多神教

▽

一神教 ➡ ローカル神の転落 ➡ 悪神(悪魔)化

➡ 妖怪化(力・由来・信仰を失う)

柳田國男

妖怪は神祭祀を失い霊を落とした姿とし、
小松和彦は、妖怪が祭祀を得て神になることもあるのを指摘。
自然の存在が祀られたり、滅ぼした政敵の鎮魂で見られる。

動物≠人

動物は人では無い

人間=動物

人は動物・動物は人

北米ネイティブアメリカン

"『大いなる神秘』(ワカンタンカ)のもとで「二つ足も四つ足も、石も草も木も」すべてが平等である。
インディアンの世界では、人間以外のものを呼ぶ際も「熊のひとたち」、「石のひとたち」、「鳥のひとたち」といったふうに呼ばれ、人間も人間以外のものもはっきりと区別されない。どの部族でも、様々な精神が信仰されているが、これらもすべて「大いなる神秘」のもとにある存在なのである。"

この他、獣を四つ足の人、鳥を羽の生えた人とも言います。

* 『Lame Deer Seeker of Visions. Simon and Schuster」
* 『Crow Dog: Four Generations of Sioux Medicine Men』
* 『イーグルに訊け』、衛藤信之、飛鳥新社、2003年など

人間=動物

人は動物・動物は人

アフリカ ブッシュマン

"そしてこの木を何だと思うかと私に聞き正した。
私は言いましたよ、『木です、おじいちゃん』とね"
"祖先の時代には、木々は『木々』と呼ばれずに、『育つていく人々』と呼ばれたのだそうです。"
"私は彼がその木を崇拝しているなどとは思いませんでした。"
"わしはあのふっくらとしたイチジクの実を敬い感謝しておる。
なぜならあれは人だと信じておるからじゃ。
もうわかったか?"

『ミステリー・オブ・ザ・ホワイトライオン (ライオンシャーマンの教え)
リンダ・タッカー

人間=動物

人は動物・動物は人

日本 隠岐の島

隠岐島には「まなる」という言葉があると教えてくれた。
意味は「動物が姿を変えて活動すること」である。
話に登場する「姫さん」は深谷に棲む蛇が「まな」った(変身した)ものであったため、Z屋のおじいさんは「姫さん」を見て恐れをなして逃げ出したという筋書きであったようだ

氏の話には続きがある。「実は自分にも似たような経験があるんだ」と、P氏は聞き取りに同行したP氏の知人と私とを交互に見比べながら、抑揚の効いた口調で自身の体験談を語り始めた。

春風社　人と動物の人類学 p89より

人間=動物

人は動物・動物は人

アイヌのカムイ

カムイは、カムイ・モシリ(神々の世界)においては人間の姿をしているが、アイヌ・モシリ(人間の世界)に降りると、ヒグマなどの動物に姿を帰る。すべての目にする動物は、カムイの仮の姿だという。
動物達は狩猟されると、丁重にイオマンテとよばれる儀式によって、カムイ・モシリに送り届けられた。

人間=動物=神

人間=動物そして神へ

人は動物・動物は人

ナワルはメソアメリカ地域において伝承される鳥獣に変身する能力を持つとされたシャーマン、あるいは変身後の姿を指す。

彼らの神はトナルと呼ばれる精霊を宿し、その力によって本来の姿とは、別の姿である

「もうひとりの自我」である動物やその他自然界の力に変身が出来ると考えられていた。

中南米のナワル

人間=動物そして神へ

人は動物・動物は人

スペイン植民地時代でもナワルは先住民居住地域においてカリスマ的指導者として、キリスト教宣教師にも認識され、ナワルが悪魔（先住民が信じる神）と契約して動物などに変身すると信じている者もいた。

折りしも、ヨーロッパにて魔女狩りに伴ってその一種とされた狼憑きの探索が盛んであった時期と重なっていた。

中南米のナワル

人間=動物そして神へ

人は動物・動物は人

ライオンシャーマニズム

『母なる地球ノンクンブラーニは、どんな動物にも姿を変えることができると言われております。
母なる地球はライオンに変身することができるのです。

その名はズール語で"動物のアイデンティティを身につけるもの""形を変えるもの"を意味します。
おわかりですね、奥様、最高位の神々は半人半獣の姿をしているという信仰が、特別な畏怖の念で動物を扱うよう我々に教えているのです。』

人間=動物そして神

人は動物・動物は人

ムトワはライオンシャーマンが霊的進化を辿る過程における、四つのステップを明らかにする。

第一段階は獅子と向き合う勇気である。
第二段階は、獅子と人間の個性を身につけることである。
第三段階は、獅子と鷹の個性を身につけることである。
第四段階は、獅子と人間と鷹と蛇の個性、最高位のライオンへの進化だ。
それは古代紋章学でグリフォンとして知られる、聖なる知識の守護者である

人間=動物そして神へ

人は動物・動物は人

アニマルメディスン

ネイティブアメリカン達は、動物の
様々な生き方から、生きる知恵と癒しを学びました。
その学を得るためのカードがメディスンカードです。

彼らは中でも動物たちを、人間が、正しく生きる道(正しい赤い道)を歩き、完全な死を迎えるために(青い道)、その教えを与えるメディスンであると考えていました。

『人生のレッスンを機敏にとらえる目を持っていたら、人間の仲間である生き物たちが見せる習性や行動パターンに、ヒーリングのメッセージを読み取ることができるだろう。〜各レッスンはひとつずつ、主要な教えを提供する。
その教えをわかりやすく単純化するために、一匹のアニマルがひとつの教えを相当する。』
ジェイミー・サムズ&デイビッド・カーソン・Medicine Cardより

❶ 人間は、自我を持つことによって、全動物の生存戦略の多様性を潜在的に内包した存在。様々な動物の自我を発現して変身することで、困難や壁を克服できる。それが人間の真の力のひみつ。

❷ 獣人は、自然に対する畏れと敬いを示すとともに、
人間の特定の生命力や知恵の顕在化も表す。自分固有のトーテムを掴み、自分特有の創造的生き方の発現を示す。
ユングの個性化。恐れを超えた完成された自我。

❸ ❶から人間神は統合された獣神を表す。
自己同一性の解体。自我の超越。

❹ キメラの本質は人間神へのプロセスだが、自己同一性を手放すことへの混乱と恐れを意味する、制御不能の怪物でもある。
抑圧された生命力とその暴走も暗示。

動物神

恐れ、力、知恵を教える存在、
守護者、眷属(使い)
多様性の力

▽

人間の自我の完成と
超越のシンボル

動物精神

　妖怪をあえて一言で語ると、自我概念の外に漂う"外部"、未知の視覚化、キャラクター化。気配はあっても掴み得ぬモノ。

単なる空想の産物とは異なります。

その中に狐、獺、化け猫などなど沢山の動物妖怪が。
彼らも掴み得ぬものだったのです。
そして、その掴みえぬ未知に
敬意と畏敬の念が生まれた時、それは神となり
失われた時、妖怪となったのではないでしょうか。

ワカンタンカ(グレートスピリット)

ワカン➡不思議

タンカ➡とても大きな

大いなる神秘

もう一つの太陽神、アメンの真の名

隠されたもの

その姿神秘なるもの

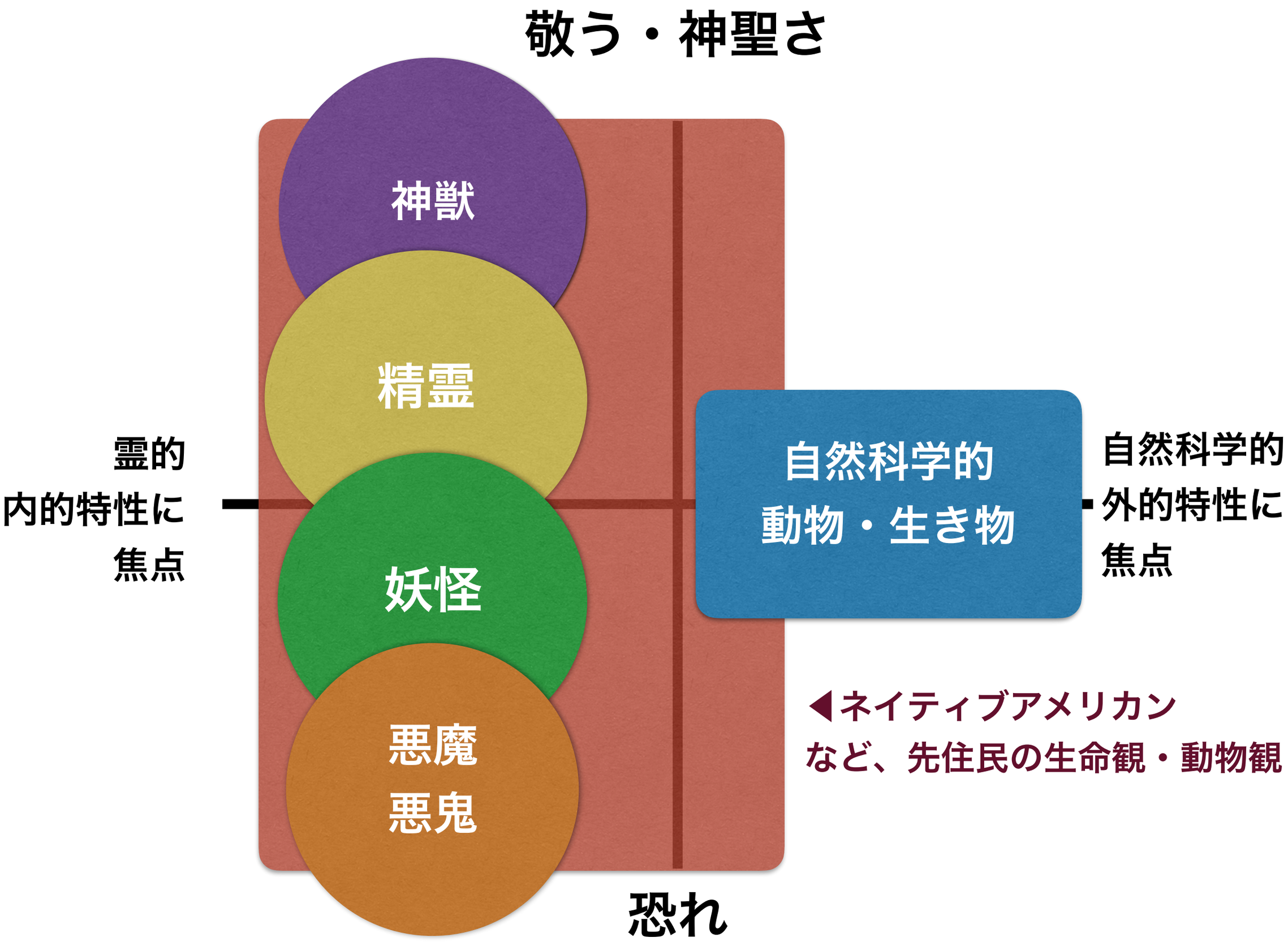
生命の息吹

アメリカの人類学者デイヴィッド・D・ギルモアによれば

「怪物たちの力は、相反するもの同士を合体させながら、さまざまな規範を覆し、認識の柵や道徳的な分別、さらに存在論的なカテゴリーをも破壊することができる」とし、相反するものとして、過去と現在、悪魔的なものと神的なもの、罪と良心、捕食者と獲物、親と子ども、自己と他者を挙げる。

そして、「それぞれを結びつける怪物とは、われわれのもっとも内奥の部分に位置する自己にほかならない」と結論づける。

春風社　人と動物の人類学 p89より

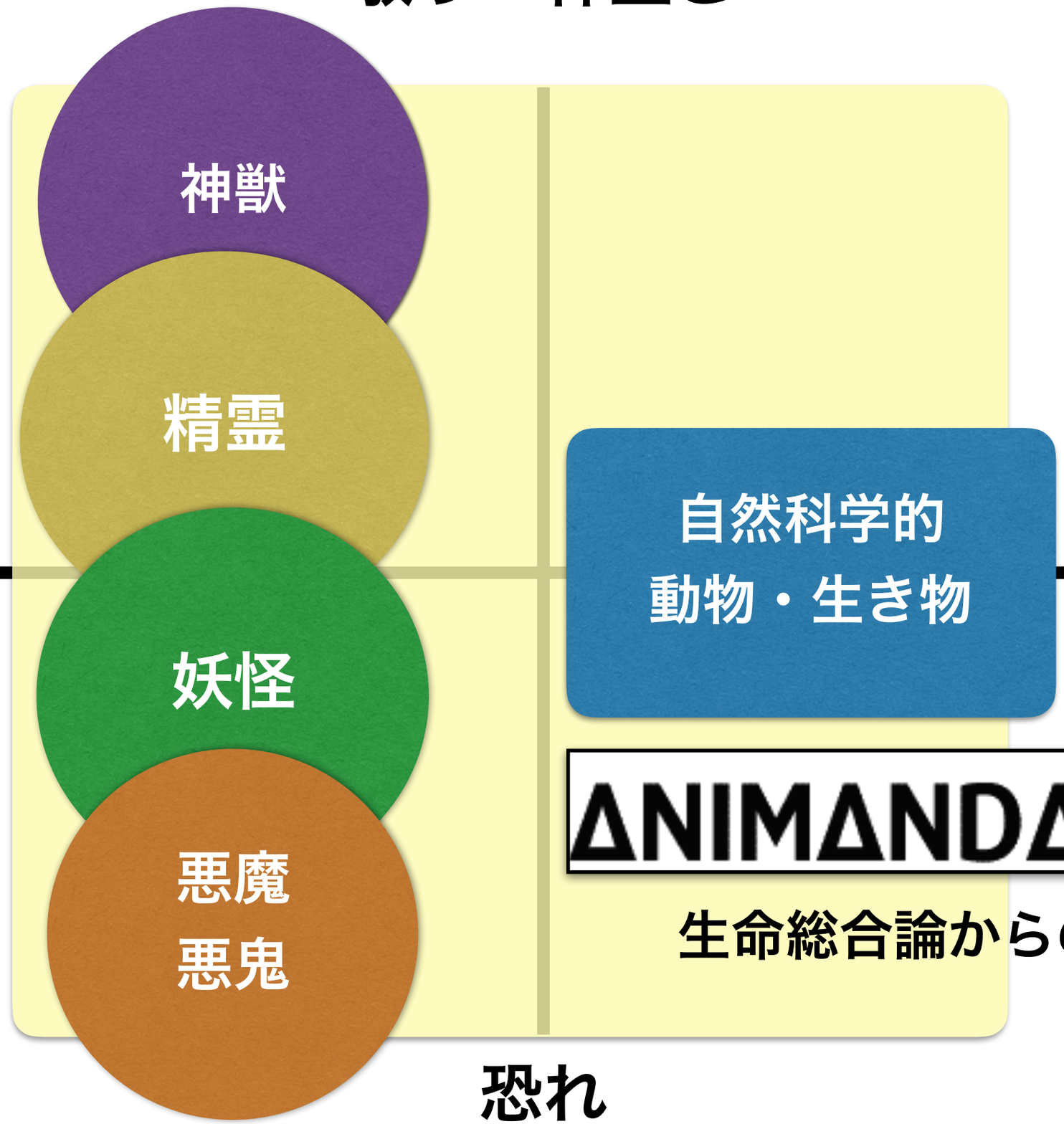

敬う・神聖さ
神獣
精霊
妖怪
悪魔
悪鬼
自然科学的
動物・生き物
霊的
内的特性に
焦点
自然科学的
外的特性に
焦点
◀ネイティブアメリカン
など、先住民の生命観・動物観
恐れ

動物は、動物？妖怪？神？それとも人？

それを決めるのは、固定的な現実ではなく
私たちの、自然や世界と、人間に対する認識様式(ゲシュタルト)が決めていると言えます。
自然や世界、人に対しても、大いなる未知を感じ、敬意と畏れがあれば、動物は神、もくは人となります。
そこから敬意が弱まり、未知への畏れだけとなれば、妖怪や精霊となり、畏れが恐れとなれば魔物になるのでしょう。
しかし、敬意も畏れも恐れも見失ったならば、もう、私たちは動物に命を感じる事は難しくなります。もうそれは、妖怪でも、神でも、人でもなく、"物"となるでしょう。
その時は、世界から人間もいなくなります。なぜならもう、人間も物となるからです。ゴーゴンに見つめられて石化したニンゲンです。

ですが、再び、世界に未知をみるならば妖怪や動物神が復活し、人間自身にもまた、命が吹き込まれ、尊ぶ存在となるのではないでしょうか？

敬う・神聖さ



霊的
内的特性に
焦点

自然科学的
外的特性に
焦点

ANIMANDALA

生命総合論からの人間論

恐れ